



Title	汎用OS(FACOM OS IV/MSP)の利用に関する注意点
Author(s)	森内, 義己
Citation	センターレポート, 12, pp.81-85; 1993
Issue Date	1993-01
URL	http://hdl.handle.net/10069/25528
Right	

This document is downloaded at: 2019-02-23T05:10:35Z

汎用 OS (FACOM OS IV/MSP) の利用に関する注意点

総合情報処理センター
森内 義己

1 システム利用上の注意点

一般研究用の利用者課題については、磁気ディスク装置の使用量とバッチジョブの処理数について、原則として次の通り制限値を設けている。

ファイル容量 : 50MB

ファイル数 : 200 個

バッチジョブ数 : 8 件

また、ジョブクラス毎の実行に関する制限値は、表 1 のとおりである。

表 1: ジョブクラス毎の制限値一覧

形 態	TSS	バ ッ チ ジ ョ ブ							
		A	B	C	D	F	L	H	G
ジョブクラス									
CPU時間 (分)	20	10	20	30	960	20	20	1	960
リージョン サイズ									
基本 (MB)	3	5	5	5	5	5	5	2	5
最大 (MB)	5	5	5	5	50	50	5	2	50
ライン プリンタ									
枚 数		300	300	300	6000	300	300	200	6000
行 数	10000	50000	50000	50000	360000	50000	5000	50000	360000
EXCP回数	30000	60000	60000	60000	無制限	100000	200000	5000	無制限

備考

ジョブクラスの処理内容

A, B, C 標準ジョブ

D, F 標準外ジョブ

L 磁気テープ装置利用ジョブ

H 大学間ネットワーク (N-1 ネット) 利用ジョブ

G ベクトルプロセッサ (VP) 利用ジョブ

T S S T S S 利用

※接続時間は無制限。ただし 1 時間キー入力がない場合は、セッションは強制キャンセルされる。

2 利用方法の主な変更点

ホスト計算機の利用方法は、TSS(Time Sharing System) 処理とバッチ処理の2通りがあるが、従来の計算機システム (FACOM M-760) と比較して TSS 処理の基本コマンドの変更はない。しかし、データセットの管理やプリンタ装置等の周辺機器の利用などについていくつかの変更点がある。

次に、これらの変更点を説明する。

2.1 ジョブクラス G (VP 用) の利用

新システムでは、これまでのジョブクラスの他に、ベクトルプロセッサを用いるジョブ用として G クラスを新設した。(制限事項は、表 1 の通り)

以下にその利用例を紹介する。

```
//F1234# JOB ,CLASS=G ..... CLASS=G の指定
```

```
// EXEC FORT,VP=YES ..... VP=YES は必須
```

ただし、VP ジョブの場合 (FORTRAN77EX/VP) は、ベクトル処理用のリージョンとして、システムの設定値として自動的に 10MB が割り当てられる。

システムの各設定値については、今後変更する必要がある。変更の際は、センターニュースやオンラインニュース等を用いて連絡する。

2.2 データセット管理

他の利用者番号を持つ利用者にデータセットのアクセスを許可するためには、ADDSD コマンドにより、保護形態を変更する必要がある。

例) READY

```
ADDSD TEST.FORT77
```

READY

```
PERMIT TEST.FORT77 ID(F1234) ACCESS(READ)
```

.....利用者番号 F1234 に TEST.FORT77 のアクセス権を与える。

2.3 周辺機器の利用

旧システムにはなかった新しい周辺機器として、カット紙プリンタ (CLP)、パーソナルコンピュータ (FMR-60HE2) 用のレーザプリンタ (FMLBP115) がある。以下、各装置の使い方を紹介する。

2.3.1 カット紙プリンタ (CLP)

カット紙プリンタでは、用紙に普通紙(カット紙)が使える、縮小印刷が可能である。
設置場所とプリンタ ID は次の通り。

設置場所	プリンタ ID	別名
センター内入出力機器室	I007C	OPEN
工学部 1 号館旧電算室 (2 F)	KOUGAKU	KOUGAKU

現在、用紙サイズは A4、B4 が使用できます。

- データセットの印刷

コマンド	オペランド
PRTFILE	F('データセット名') T(プリンタ ID) PRINTMODE(PORT LAND LP ZOOM PZOOM) SHEETSIZE(A3 A4 A5 A6 A4 B5 LTR)

例 1 F1234.ABC.DATA を入出力機器室内カット紙プリンタ (OPEN) へ
出力する場合

```
READY
PRTFILE F(ABC.DATA) T(OPEN)
```

例 2 F1234.AAA.DATA(TEST) を工学部 1 号館のカット紙プリンタ
(KOUGAKU) へ出力する場合

```
READY
PRTFILE F(AAA.DATA(TEST)) T(KOUGAKU)
```

- 出力要求の表示

コマンド	オペランド
INFPREQ	NAME(要求名) CODE(要求番号) USER(利用者番号) ALLUSER TERMINAL(プリンタ ID)

例 プリンタ (OPEN) の出力要求情報の表示

```
READY
INFPREQ T(OPEN)
*** INFORMATION BEGIN ***
CODE  NAME  USER ID  WRITER  POS   STAUS  CURR-PAGE
000193 F1234   F1234    OPEN    1     PRINTING  0
```

2.3.2 パーソナルコンピュータ (FMR-60HE2) 用のレーザプリンタ (FMLBP115)

レーザプリンタ (FMLBP115) は、パーソナルコンピュータ (FMR-60HE2) にプリンタ切り替え器を経由し接続されている。使い方は次の通り。

(1) プリンタ装置の電源を入れる。

(2) プリンタ切り換え器 (DEB221) の電源を入れる。

(この時、プリンタ装置は ONLINE 状態であること。)

(3) 画面のハードコピーを取る場合は、

CTRL キーと SHIFT キーを押しながら、p キーを押す。

なお、プリンタ切り替え器は、最大6台のパーソナルコンピュータから印刷要求を受け付けて、順次印刷することが可能である。ただしその為には「AUTO」モード(緑のランプ点灯)で使用することが必要である。赤ランプがスキャンニング(6つの表示位置を動く状態)していれば、いつでも印刷可能な状態である。

(4) ハードコピー操作の解除

プリンタ装置の電源を入れずに、(3)のハードコピー操作をすると、画面下に「印刷できない状態です」と表示される。その場合は、CTRL キーと SHIFT キーを押しながら、k キーを押す。

(5) パソコン独自の機能において画面ハードコピーを行う場合

キーボードの COPY キーを押すと、そのまま出力される。

(6) データセットの印刷を行う場合

上述のカット紙プリンタ (CLP) と同様に PRTFILE コマンドで出力できる。

この時のプリンタ ID は、パーソナルコンピュータの端末 ID に P を付加した ID である。(例えば、I0101P、I0202P など)

なお、第1 端末室、第2 端末室内のパーソナルコンピュータには、端末ラベルを貼っているので、参照されたい。

2.3.3 その他

(1) パーソナルコンピュータ (FMR-60HE2) のフロッピーディスク装置

従来のパーソナルコンピュータ FMR-60HD のフロッピーディスク装置は5インチディスク対応であったが、今回の FMR-60HE2 では、3.5 インチディスク対応となっている。

ファイル転送等の使用方法については、各ホスト (MSP、UXP、ワークステーション) で異なるが、MS-DOS の利用メニューにてファイル転送を選択すると、ftp コマンドの使用方法が明記してある。また別項の「パーソナルコンピュータシステムの紹介」も参考にされたい。

(2) 日本語プリンタ装置 (NLP) および磁気テープ装置

基本的には従来の使用方法との変更点はないが、バッチ処理を行った後の出力検索 (SORP、MSO) でのプリンタ出力方法や、PFD/E のユーティリティの OUTLIST コマンドが追加されている。